

○圓明寺境内

寺伝によれば、天平勝宝元（749）年に聖武天皇の勅願により、行基菩薩^{ぎょうきぼつさつ}が本尊の阿弥陀如来像と脇侍の観世音菩薩像、勢至菩薩像を彫像して安置し、七堂伽藍を備えた大寺として建立したのが創建とされています。

創建当時は和気浜の西山という海岸にあり「海岸山・圓明密寺^{かいがんざん えんみょうみつじ}」と称したとされます。中世の度重なる兵火で衰微しましたが、江戸時代の元和年間（1615～1624年）に地元の豪族須賀重久^{すがしげひさ}によって現在地に移され、寛永13（1636）年、京都御室の覚深法親王^{かくしんぽっしんのう}からの令旨により仁和寺の直末として再建され、寺号も現在のように改められました。愛媛県指定有形文化財の八脚門が原位置に残り、近世初頭の境内空間が現在まで引き継がれています。



圓明寺境内